

白藍塾オリジナル

2011入試小論文分析&解答のヒント

2011年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

●慶応・看護医療学部

例年通り、課題文に設問2つがついている。昨年は課題文は2つだったが、今年は1つ。福澤諭吉『学問のすゝめ』から一部抜粋し、わかりやすく改変したもので読み取りにはそれ程苦労しない。ただし、主張を読み取るには内容を整理しなおして読むのが有効だ。その際にも、小論文の四部構成が使える。四部構成の「型」になぞらえて課題文を読んでみるといい。そうすると次のように読める。

まず筆者は、あらゆる善くない性質の中でも最も善くないものは、他人の幸福をねたむ怨望、すなわちひがみ根性だとしている。「問題提起」の代わりに結論から始めていると読める。そして、他の善くない性質も挙げながら、怨望はそれらと違ってその性質自体が絶対的に善くないとしている。これが「意見提示」に当たる。その上で、怨望とは、「いわゆる社会公共の利益を犠牲にして、自分一個の私憤をはらすものといわねばならぬ」「それではどこから生ずるか」といって、人類自然の精神活動が抑圧されることにある。(言論の制限、行動の自由を束縛)「幸福も不幸も、(まったく本人の自由意志によらず、)偶然の運命に支配される社会にのみ、怨望は著しくはびこるのである。」といったことを述べ、怨望とはどういったもので、なぜ善くないのかを説明している。これが「展開」に当たる。最後は「結論」の代わりに念押しとして孔子の話題に絡めながら締め括っている。

問題1は、この課題文を読んで、「怨望」とはどういったものであるのか、説明が求められている。要約問題に準ずる問題だ。これは、先に示したように四部構成になぞらえて読み取った内容をまとめればいい。最初にズバリ「怨望」の定義を示し、あ

とは課題文を四部構成になぞらえたときの「意見提示」「展開」に当たる部分を順を追って書いていくといいだろう。なお、最後の孔子の話は蛇足になるので省くこと。

問題2は、「怨望の害」に当てはまる例を社会現象の中から見出して、500字以内で説明することが求められている。この問題に対しては、次のような構成にするといい。まず社会現象から当てはまると思われる例を挙げる。次に、それが筆者の言う「怨望」に当てはまらない場合を「確かに」で説明し、「しかし」で切り返して、「怨嗟」に当てはまる場合の条件を述べる。つづけて、その現象が筆者の言う「怨望」に当てはまることを詳しく解説し、最後にまとめを行う。

例としては、1つ挙げるならば、例えばテロなどが考えられるだろう。最初は人々を苦しめるような圧政を行う支配者を排するための戦いで、理性によって人に危害を加えずに目的を果たす方法をとっていたのが、エスカレートして目的と理性を失い、あらゆる幸福な暮らしをねたみ、そうした罪の無い人々の暮らしを壊そうとするようになったとしてみよう。そのような現象などが考えられる。

今年の問題は、昨年のような、文章中で描かれた人物の微妙な心理を読むような問題と違い、筆者の主張は比較的明確なものだ。したがって、普通に答案を書くと差がつきにくいだろう。問題1では、いかに内容をうまく整理してまとめるか、問題2では適切な例を見つけて、課題文の主張に沿って解説するかで勝負が決まるだろう。そのような場合にこそ、四部構成は威力を発揮するはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>